



## 平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年10月28日

上場取引所 東 名

上場会社名 株式会社 木曾路

コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長

(氏名) 吉江 源之

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 服部 昭仁

TEL 052-872-1811

四半期報告書提出予定日 平成28年11月4日

配当支払開始予定日

平成28年11月28日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第2四半期の業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	19,766	0.1	△1,270	—	△1,234	—	△783	—
28年3月期第2四半期	19,741	△2.4	△1,041	—	△1,025	—	△761	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	△30.31	—
28年3月期第2四半期	△29.46	—

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	35,998	—	27,552	—	—	76.5
28年3月期	37,614	—	28,659	—	—	76.2

(参考)自己資本 29年3月期第2四半期 27,552百万円 28年3月期 28,659百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金					合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	円 銭	
28年3月期	—	7.00	—	7.00	円 銭	14.00
29年3月期	—	7.00	—	—	円 銭	—
29年3月期(予想)	—	—	—	7.00	円 銭	14.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成29年3月期の業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,000	1.9	600	19.4	660	32.7	90	—	3.48

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期2Q	25,913,889 株	28年3月期	25,913,889 株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	78,150 株	28年3月期	77,744 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期2Q	25,835,899 株	28年3月期2Q	25,836,745 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、「添付資料」4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(3) 追加情報	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(第2四半期累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
平成29年3月期	19,766	△1,270	△1,234	△783	△30.31
平成28年3月期	19,741	△1,041	△1,025	△761	△29.46
増減率(%)	0.1	-	-	-	-

当第2四半期累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による金融政策により雇用情勢の改善から全体的に緩やかな回復基調で推移する一方で、政策導入後の不安定な株価や円高の進行により企業収益の後退、消費者マインドの変化、また、新興国経済の減速や欧米諸国の経済情勢変化による各国経済への影響懸念など、依然先行きは不透明な状況で推移しました。

外食業界におきましては、消費者マインドの変化により節約志向が再び高まるとともに、天候不順や需給バランスの悪化による原材料価格の上昇、人手不足を背景とした人件費の増加など依然厳しい経営環境で推移しております。

このような経営環境の中で当社は、「日本一質の高い外食企業」を目指し、旗艦部門である木曾路部門を中心とした業務改革を推進し、強みである商品力及び接客力の強化とともに原材料の仕入や消耗品等の購入を見直し、より働きやすい職場づくりにも注力しました。また、木曾路部門は、一号店出店より50周年を迎え、これまでの感謝を込めて特別メニューの販売やイベントの開催を行っております。

店舗展開、改築・改装につきましては、2店舗の新規出店、3店舗の業態転換(ウノからじゃんじゃん亭、この、穂の里から鈴のれん)、3店舗の退店を実施し、その結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は164店舗(前年同期比4店舗減少)となりました。

営業面では、多様化するお客様ニーズにお応えするため料理の品質向上や付加価値の高い旬の食材を使用した料理の販売とともに、接客サービスの充実とレベルアップに努めました。また、法人顧客囲い込みのより一層の強化を進めております。

費用面では、主要原材料である牛肉などの仕入価格や人手不足により賃率が上昇する一方で、水道光熱費は単価の低下や節減により、また減価償却費などが減少しました。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は197億66百万円(前年同期比0.1%増加)、営業損益は12億70百万円の損失(前年同期実績10億41百万円の損失)、経常損益は12億34百万円の損失(同10億25百万円の損失)、四半期純損益は7億83百万円の損失(同7億61百万円の損失)を計上しました。

(部門別の概況)

部門別売上高

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	前年同期比 増減率
	百万円	百万円	%
木曾路	16,320	16,502	1.1
素材屋	1,264	1,085	△14.2
じゃんじゃん亭	706	961	36.0
とりかく	512	537	4.9
鈴のれん	563	455	△19.2
その他	372	224	△39.7
計	19,741	19,766	0.1

### 木曽路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は119店舗であります。

営業面では、季節毎のイベントや恒例の「和牛しゃぶしゃぶ祭り」に加え、一号店出店より50周年を迎え、特別メニューの販売や各種イベントを実施しました。また、強みである調理技術を生かした旬の一品料理の一新や法人顧客へのアプローチを強化しました。その結果、売上高は165億2百万円(前年同期比1.1%増加)となりました。

### 素材屋部門

居酒屋の「素材屋」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は14店舗(前年同期末比4店舗減少)であります。

営業面では、炭焼き串焼きにこだわり、また自家製の惣菜料理や旬の食材を活かした季節メニューの販売、焼酎一升瓶のお値打ち販売を実施するとともに、少人数から大人数の様々な宴会利用ができる店舗として営業活動を行いました。しかしながら、前年同期に比べ4店舗の減少もあり、売上高は10億85百万円(同14.2%減少)となりました。

### じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、1店舗の新規出店、1店舗の業態転換により、当第2四半期会計期間末店舗数は12店舗(同3店舗増加)となりました。

営業面では、「手切り、熟成肉、黒毛和牛」にこだわり食べ放題メニューの拡販とスピード提供、先手のサービスに取り組みました。また、法人や学生のイベントなどに合わせた予約獲得活動の強化に努めました。その結果、売上高は9億61百万円(同36.0%増加)となりました。

### とりかく部門

鶏料理の「とりかく」部門は、1店舗の新規出店、1店舗の業態転換(改装中)により、当第2四半期会計期間末店舗数は12店舗(同2店舗増加)となりました。

営業面では、「手作り」、「鶏」にこだわった料理と旬の逸品料理の販売を行い、また鶏料理の醍醐味と季節に合わせた食材の宴会コース、お客様ニーズの高い飲み放題メニューの充実を図り来店客数の増加に努めました。その結果、売上高は5億37百万円(同4.9%増加)となりました。

### 鈴のれん部門

和食レストランの「鈴のれん」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は6店舗であります。

営業面では、御膳や季節毎のメニューの充実、しゃぶしゃぶやすきやきの食べ放題メニューによる宴会、また慶弔などの行事に対応したメニューと人数に合わせた多様なお席を準備し来店客数の増加に努めました。しかしながら、前年6月の2店舗の退店、1店舗の業態転換による店舗減少もあり、売上高は4億55百万円(同19.2%減少)となりました。

### その他部門

その他部門は、ワイン食堂の「ウノ」(平成28年5月に6店舗中、5店舗を退店(うち2店舗業態転換))、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等であります。

その売上高は2億24百万円(同39.7%減少)であります。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度末 (平成28年3月31日現在)	当第2四半期 (平成28年9月30日現在)	増 減
総資産(百万円)	37,614	35,998	△1,616
純資産(百万円)	28,659	27,552	△1,107
自己資本比率(%)	76.2	76.5	-
1株当たり純資産(円)	1,109.30	1,066.45	△42.85

当第2四半期会計期間末の総資産は359億98百万円で前事業年度末比16億16百万円の減少となりました。主な要因は、設備投資、賞与、配当金、法人税等の支払で預金を取り崩したことによるものであります。一方、負債は、84億45百万円で前事業年度末比5億9百万円の減少となりました。これは主に未払費用、未払法人税等、未払消費税等が減少したことによるものであります。また、当第2四半期会計期間末の純資産は275億52百万円で前事業年度末比11億7百万円の減少となりました。主な要因は、四半期純損失7億83百万円(減少)、剰余金の配当1億80百万円(減少)によるものであります。

以上の結果、当第2四半期会計期間末の自己資本比率は76.5%(前事業年度末は76.2%)、1株当たり純資産は1,066.45円(同1,109.30円)となりました。

②キャッシュ・フローの状況

(第2四半期累計期間)

	平成28年3月期 (百万円)	平成29年3月期 (百万円)	増 減
営業活動による キャッシュ・フロー	△989	△1,696	△706
投資活動による キャッシュ・フロー	△373	△436	△63
財務活動による キャッシュ・フロー	△215	△230	△15
現金及び現金同等物の 四半期末残高	11,975	11,038	-

当第2四半期累計期間のキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが16億96百万円の流出超過(前年同期は9億89百万円の流出超過)となりました。主な内容は、減価償却費の計上に対して、たな卸資産の増加、法人税等の支出及び税引前四半期純損失の計上によるものであります。投資活動によるキャッシュ・フローは、主として新規出店・改装等による投資により4億36百万円の流出超過(前年同期は3億73百万円の流出超過)、財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済、配当金の支払等で2億30百万円の流出超過(前年同期は2億15百万円の流出超過)となりました。

この結果、当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は前事業年度末比23億64百万円減少し、110億38百万円となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年4月28日に公表いたしました通期の業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,403	11,038
売掛金	1,031	854
商品及び製品	40	60
原材料及び貯蔵品	561	1,154
その他	859	1,296
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	15,895	14,404
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	6,563	6,478
土地	5,723	5,723
その他(純額)	1,457	1,586
有形固定資産合計	13,744	13,789
無形固定資産	117	137
投資その他の資産		
差入保証金	4,720	4,660
その他	3,166	3,037
貸倒引当金	△30	△31
投資その他の資産合計	7,856	7,666
固定資産合計	21,719	21,593
資産合計	37,614	35,998
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,309	1,313
短期借入金	920	920
未払法人税等	337	200
賞与引当金	486	585
その他の引当金	316	322
その他	2,679	2,179
流動負債合計	6,049	5,521
固定負債		
退職給付引当金	988	973
資産除去債務	1,300	1,316
その他	616	634
固定負債合計	2,905	2,924
負債合計	8,954	8,445
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	8,561	7,597
自己株式	△120	△121
株主資本合計	28,373	27,408
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	286	144
評価・換算差額等合計	286	144
純資産合計	28,659	27,552
負債純資産合計	37,614	35,998

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	19,741	19,766
売上原価	6,516	6,681
売上総利益	13,224	13,085
販売費及び一般管理費	14,266	14,356
営業損失(△)	△1,041	△1,270
営業外収益		
受取利息	7	8
受取配当金	13	14
協賛金収入	8	8
その他	5	12
営業外収益合計	34	44
営業外費用		
支払利息	4	3
賃貸借契約解約損	14	-
保険解約損	-	2
その他	0	2
営業外費用合計	19	8
経常損失(△)	△1,025	△1,234
特別利益		
固定資産売却益	2	-
投資有価証券売却益	-	202
特別利益合計	2	202
特別損失		
固定資産除却損	30	12
固定資産売却損	-	1
減損損失	-	16
特別損失合計	30	30
税引前四半期純損失(△)	△1,053	△1,062
法人税、住民税及び事業税	58	60
法人税等調整額	△350	△339
法人税等合計	△292	△279
四半期純損失(△)	△761	△783



(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失(△)	△1,053	△1,062
減価償却費	597	552
減損損失	—	16
売上債権の増減額(△は増加)	61	176
たな卸資産の増減額(△は増加)	45	△613
仕入債務の増減額(△は減少)	△106	4
未払消費税等の増減額(△は減少)	△528	△197
その他	△69	△328
小計	△1,053	△1,451
利息及び配当金の受取額	20	21
利息の支払額	△4	△3
法人税等の支払額	△38	△227
法人税等の還付額	95	2
その他	△9	△36
営業活動によるキャッシュ・フロー	△989	△1,696
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△424	△537
差入保証金の回収による収入	76	114
その他	△24	△14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△373	△436
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△180	△180
その他	△34	△49
財務活動によるキャッシュ・フロー	△215	△230
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,578	△2,364
現金及び現金同等物の期首残高	13,554	13,403
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,975	11,038

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。